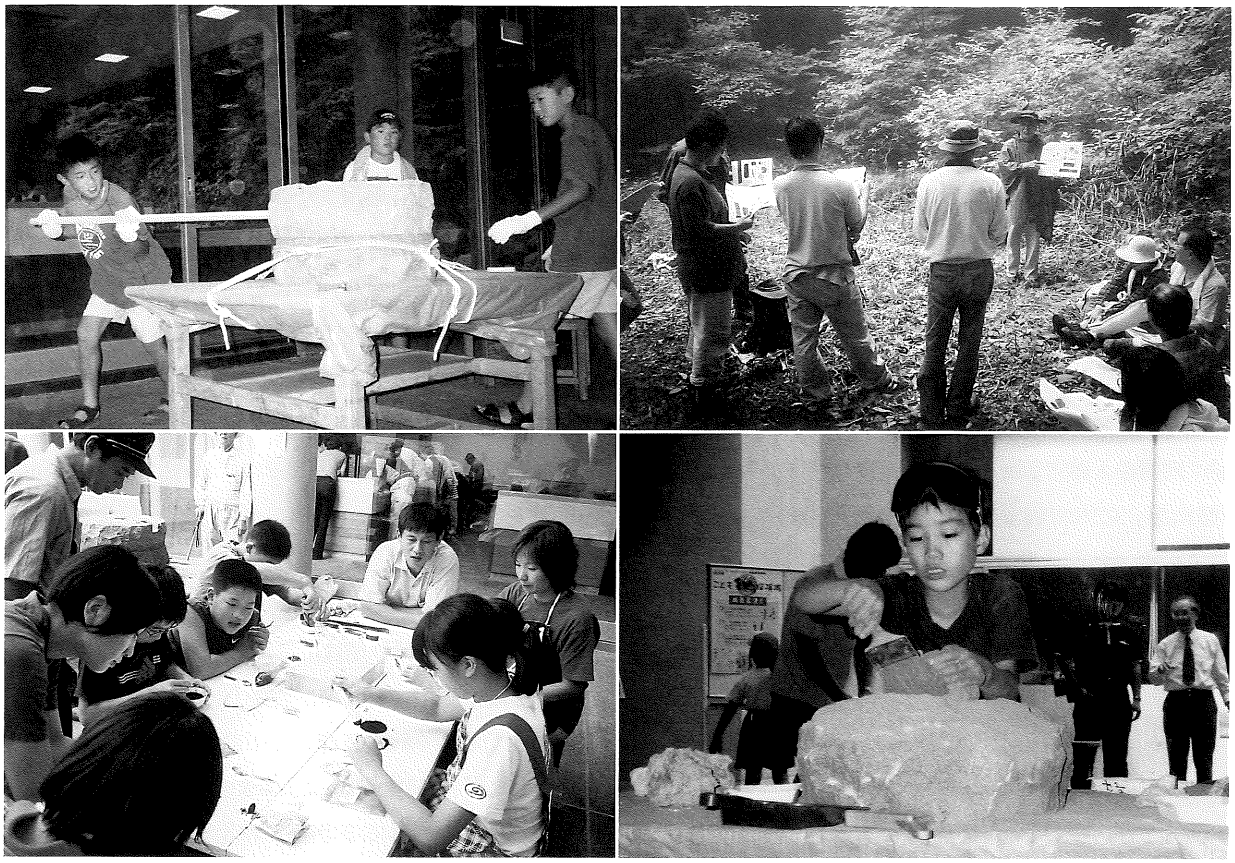
甲斐の金山から　平成13年9月18日　第18号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



輝いた「こどもの目!!」

―こども金山探険隊、終了！―

今年度の博物館夏休みイベントとして7月29日から9月2日まで、3回に分けて行われた「こども金山探険隊」が終了しました。

第1回目の7月29日には「こども金山探険隊」が結成され、中山金山遺跡現地見学を実施。そして2回目の8月18日には、3種類の回転式挽き臼を使って鉱石を粉砕し、比重選鉱で金を採取。最終回の9月2日には、採取した金を純金粒に仕上げる灰吹作業に挑戦しました。

参加したこども達は、どの作業も初めての経験でしたが、こども達の目は輝き、一生懸命、楽しそうに、この体験学習に取り組みました。

（詳しい関連記事Ｐ４～Ｐ６掲載）

心がかよう博物館

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長　谷口一夫

全国的には来館者が減少

今年開かれた文部科学省主催による全国博物館館長会議で配られた資料では、年々全国の博物館、資料館、美術館などの数が増えているのに反して、1館当たりの来館者数が減少傾向にあることが報告されました。

これは日本博物館協会・東海地区博物館連絡協議会や山梨県博物館協会などの報告でも来館者の減少が報告されています。

前年を上回る入館者

しかし、こうした全国的、地域的減少傾向を尻目に、「甲斐黄金村・湯之奥金山博物館」は、平成13年度に入り4、5、6、7、8月の5箇月間とも、前年同期の入館者数を上回る来館者を迎えています。「博物館」に人が帰ってきた、そんな感じもするわけですが、他館の関係者に聞くとそうでもない、そんな状況ではありませんよ、という答えが返ってきます。開館4年5箇月で近く8万人を迎えます。

エントランスはコミュニケーションの場

来館者とのコミュニケーション

普通、博物館、資料館へ行っても、チケットを買って館内を一巡して、出てくるケースが多いわけですが、それでは何か味もそっけもありません。しかし、なかなか学芸員に説明してくれとは言いにくいものがあります。一方、話題性が高い「特別な企画展」などでは、展示物より人波に押されてなどということもあり、目的の展示物も十分見られないこともあります。これでは来館者とのコミュニケーションは図れません。

湯之奥金山博物館では、来館者に負担にならない程度に、ひとこと声をかけるようにしています。町特産の椎茸茶（金箔入り）を飲んで頂きながら、湯之奥金山史の補足説明や、砂金談義に、さらには下部温泉郷の歴史から、下部町全体の話に発展していきます。お話しをすると遠方から来ていただいた来館者のニーズが満たされたかどうかこれは大変大事なことですが、少し会話を交わせば、満足度といったものが分かります。

金山博物館は下部町の「顔」であり「名刺」

湯之奥金山博物館は下部町の「顔」であり「名刺」であると心得ています。だからせっかく下部町へ出かけてきてくれた皆様方に下部町の「素顔」を知っていただきたい。知ればますます下部町が好きになってもらえる。常にこのスタンスで望んでいます。

時には宿泊客から宿泊先の苦情を持ち込まれることもありますが、いろいろ話をしている内に、帰りには、博物館へ寄って良かった、また来ようと言って帰られる入館者に接したときには、心底ああ良かったなと思います。この「小さな出来た」を重ねることで、下部町のイメージを高めることになると思っています。

話題には「事」欠きません

下部町にはたくさんの自然があり、歴史遺産があり、古い歴史をもつ下部温泉があります。話題には事欠きません。

自然では本栖湖の半分が下部町ということは意外に知られていません。しかし5,000円札の富士山の撮影スポットは下部町です。また山が多いということは「紅葉」や「新緑」の季節が素晴らしいということです。本栖湖から下りてくる峠、国道300号線ですが、日光のいろは坂にも匹敵します。私は「下部いろは坂」と命名するとよいのではと思っています。途中アルプスの眺望も楽しめますし、しもべ・道の駅では、ホタルドームでホタルに関する学習が出来たり町の特産品にも触れることが出来ます。

歴史遺産は16世紀の戦国時代に操業されていた「砂金」に代わる「山金」（金鉱石から金を採る）産金の日本における初源的金山として国指定史跡になっている湯之奥金山（湯之奥金山博物館はその歴史を公開しています）をはじめ、かつての湯之奥村の歴史や金山の消長を見守ってきた門西家、その住宅は国の重要文化財に指定されていますが見学者が絶えることがありません。金山は開山450年になります。

また、木喰仏で知られる木喰五行上人の生誕（282年前）の地が「丸畑」にあります。そこには上人の遺作・遺品があり「微笑館」で直接見ることができます。微笑館への交通の便は決して良いとは言えませんが、年間3,000人以上の来館者を全国からお迎えしていることは驚きです。全国的に研究者やファンが多いことの表れです。

下部温泉郷も「武田の隠し湯」と言っていますが、実はその歴史はもっと古く、文久11年（1274）に日蓮聖人が身延山を開き、弘安５年（1282）に亡くなる８年間に残された書簡の中で、既に「湯治場としての下部温泉」の記述がみられます。残念ながらそれ以前の記録はありませんが、湯治場としての成立時期はそれを遡ります。10世紀に近い歴史をもった温泉、それが「下部温泉」です。

このように古い歴史遺産をもっている町、それが「下部町」です。これらを話題に終始一貫、下部町の良さをアピールしています。

また来て下さい。また来ますよ。

下部町って凄いんだ、また来ますよ。また来て下さいね。こんな努力を開館以来続けてきています。

大阪弁の２人連れの女の子と言葉を交わしました。「関西ですか？」「そ、大阪」「なんで知ったんですか？」「HPで、砂金すごく面白かったわ」今年の夏はインターネットで情報を得て来てくださった遠隔地の来館者から、文部科学省事業である「親しむ博物館づくり事業」で『こども金山探険隊』計画が内定したのに伴い実施、それに伴い参加された県内外のご家族の方々など、体験学習を通じて新しい来館者との出会いがたくさんありました。いずれも下部町の素晴らしさを満喫されたようです。これからも「心がかよう博物館」、「親しまれる博物館」であり続けるために頑張りたいと思います。

活　動　報　告

1　こども金山探険隊企画開発委員委嘱式

夏休みイベント「こども金山探険隊」を実施・開催するにあたり、当館では「こども金山探険隊企画開発委員会」を設置しました。

委員会設置に伴い10人の実行委員が選出され、７月３日に開かれた企画開発委員会において、委嘱式と会議が行われました。委員長に小林利典氏（中央公民館長）、副委員長に西脇　康氏（早稲田大学・白梅学園短期大学非常勤講師）が選出されました。

今回が初めてとなる事業であり未知数の部分が多いことや、対象が子どもたちであるということなどの様々な配慮から、活発な意見交換が交わされました。

2　管内小中学校へ図録配布

自分達の住んでいる町の歴史をもっと学び、理解し、文化財を保護する心を養ってほしいという目的から、管内の小学校３年生以上、中学校生徒全員に、当館の展示図録を配布することを決定いたしました。

今年７月、町内５校を１校づつ訪ね、谷口館長から各学校長に手渡されましたが、町の歴史に興味を持ち、子どもたちにとって博物館が身近なものに感じることが出来るように願っています。来年度は管内の新しく小学校３年生に上がった児童に配布いたします。

「文部科学省・親しむ博物館づくり事業」事業報告

こども金山探険隊
～戦国時代金山へタイムスリップ～

文部科学省では平成14年度の完全学校週５日制に向け、平成13年度までに地域ぐるみで子育てを支援する基盤を整備し、夢を持ったたくましい子どもに育てるための全国子どもプランに取り組んでいます。「親しむ博物館づくり事業」はこの全国子どもプランの一環として子ども達が楽しく遊びながら、伝統文化、科学技術、歴史、芸術などに直接触れることの出来る機会を提供する事業です。

子ども達の感性に働きかけることの出来る身近で楽しい施設づくりを目的としたこの事業の中で、湯之奥金山博物館が申請した「こども金山探険隊～戦国時代へタイムスリップ～」のプログラムが認められ、今年の夏休みイベントが実現しました。

内容は、かつて湯之奥金山で行われていた鉱山作業、採鉱から始まり精錬作業まで、実際に鉱山で行われていた産金技術を子ども達自身が実体験してみるというテーマで、採鉱、粉成、灰吹の各作業を夏休み中の３日間にふりわけて実施しました。

小学生から中学生までの参加者を募ったところ、県内外から約20人の申し込みがあり、「こども金山探険隊」のプログラムがスタートしました。

第１日目：「こども金山探険隊」結成!!

中山金山遺跡現地見学会

７月29日㈰　晴れ時々曇り

「おはようございます」

博物館エントランスにぽつぽつと集まってくる参加者達の挨拶が響きました。リュックサックを背負って、身支度を整えてきた参加者の中には、期待とほんの少しの不安が入り混じったような表情が見受けられました。

今回、中山金山遺跡に登るのは、小学生から中学生までのこども金山探険隊９人と、その保護者としてお母さんやお父さんが６人。そして一般参加者10人。毎年恒例の遺跡見学会は、今回、「こども金山探険隊」の日程に合わせ、一般の部として参加していただきました。そしてちょうどこの時期にインターンシップの研修生として博物館で研修をしていた、地元峡南高校２、３年生５人。博物館事務局も合わせると総勢30人以上になりました。

現地出発の前に、開会式、金山探険隊結成式を行い予備知識として博物館内の映像シアター、ジオラマ、そして展示室見学後、いよいよ現地へ向けて出発しました。

庁用バスに全員乗り込み、約20分程バスに揺られ毛無山登山道入口に到着。現地までの行程片道約１時間30分の登山が始まりました。探険隊は、研修生をリーダーに２班に分かれての登山。一般参加者もそこに合流しての登山となりましたが、隊員達は意外と元気。休憩時間がもどかしく感じているような隊員もいました。逆にすっかり疲れて「ここから下りてもいい？」とお母さんに尋ねたりする隊員など、様々です。休憩を挟みながらの登山、「もうすぐ到着だよ」という声を聞くと、みんな足が軽くなったように歩みを進めていきました。

現地に到着したのは12時30分頃。隊員達の心情は「あの急斜面を登って現地に到着した」という達成感でいっぱいのようで、辛そうに登っていた隊員にも表情に笑顔がありました。テラスを初めて目にした感想の多くは「ここが金山の跡？」でした。まずは見学の前に昼食。山の上で食べるおにぎりはきっと美味しかったに違いありません。

昼食後にはいよいよ、現地を目の前にしての学習タイム。まずは中山の現地に残されている最も長い坑道の見学。軍手と、懐中電灯もしくはヘッドライトを装着し一人づつ坑道の中へ。中に入ったら這っ

て出てこなければならないほど入口は狭く、中もかがんで歩かなければならないような狭さです。隊員の感想を聞いてみると「中がひんやりしている」「おもしろかった」「初めて入った」など感想は様々。初めて入った坑道にわくわくしている様子でした。

坑道を見学した後、焼き窯の跡や石組みなど、山中に残された生活跡を見ながら、昔この鉱山で暮らした人々の生活ぶりはどんな感じだったのか、隊員達なりに考えながらよく観察していました。

そして隊員達にとっては今回のメインイベント。金鉱石の見分け方や特徴などの説明を受けてから、金鉱石の表面採集です（注）。川沿いにガレ場を登り、鉱石を探すのに一生懸命。約40分程の探索の後、隊員達が手にした小袋は、たくさん入っているもの、まだ空っぽのものなどいろいろ。でも、探している時には「これは鉱石？」「こういう感じの石が採れたんだけど…」周りにいる大人達にいろいろ質問してきます。ところが、山の天気は非常に変わりやすく、周囲は大分霧が立ち込めて少し小雨もぱらついてきました。悪天候になる前に下山した方が良いという判断から、石造物を見学した後、参加者全員、一人づつ供養塔にお線香を手向け、山を後にしました。

大変だった道も、帰りは下り坂なので登ってくるより辛さがなかったようです。約１時間で登山道入口まで下りてきて、バスで博物館へ帰館。

隊員達には表面採集してきた鉱石がお土産となりました。

（注）中山金山遺跡は平成９年９月に塩山市黒川金山遺跡と共に国史跡に指定されていますので、鉱石を採掘したり、現地に残された遺物・遺品を持ち出すことは、文化財保護法で禁じられています。

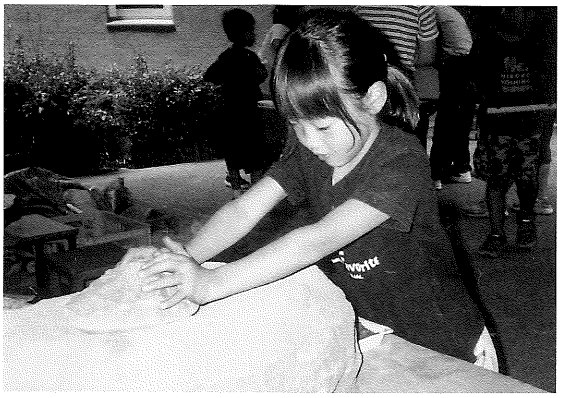
第２日目：「こども精錬場」

～粉成・比重選鉱～

８月18日(土)　晴れ

２回目の「こども精錬場」では、金鉱石を砕き、金を採取する作業。つまり、粉成・ゆり分けを実際してみることがテーマです。

集合時間近くになり、隊員たちが続々と集まってきました。初日から比べるとみんなの表情に戸惑いはなく、屋外展示室に設置してある３つの挽き臼を見に行くなど、むしろ楽しみにしている感じでした。



谷口館長から、３つの挽き臼の歴史的意味、そして作業工程の説明を受けた後、実際の作業へと移りました。まず鉱石を砕きやすくするために一旦焼くのですが、中山金山の鉱石を自分で持っている隊員は、その鉱石をドラム缶で作った簡易窯に入れ、鉱石を焼く前の色と、焼いた後の色の違い、焼けて鉱石が弾ける音などに注意して、観察しながら焼けるのを待ちました。

鉱石が焼けるまでの40分の間に、予め焼いておいた鉱石をそれぞれに渡し、いよいよ粉成作業開始です。

まずたたき台で鉱石を粗砕きし、それを４つの臼で挽き比べをしてもらいました。用意した臼は磨り臼、そして湯之奥型、黒川型、定形型の３種類の回転式挽き臼です。人気が集中したのは意外と磨り臼。自分で磨り石を握り、鉱石がみるみるうちに細かい粉になっていく様子が、他の臼よりも分かりやすいため隊員たちに受けたようでした。

回転臼も柄を持ちゆっくり回転させていくと臼の脇から微粉化された鉱石が落ちてきます。それを自分のトレーに集めます。そうしている間に、ドラム缶の中ではちょうどいい具合に鉱石が焼けていて、表面は赤茶色に変色しています。窯から取り出したばかりの鉱石を水を張ったバケツに入れると、ジュワっという音と共に水蒸気を発し、ひびが入ります。隊員達はそれが面白いようでした。

細かくなった鉱石を今度は汰り分け。金が出てくるかどうか、ここが楽しみなところです。砂金採り体験室で砂金の採り方を体験した後、自分で磨り潰した鉱石の粉を汰り分けです。

砂金採り体験室の砂と違って、こっちは水に入れ

たとたん、水がまっ茶色に濁ってしまいます。隊員たちは慎重に慎重を重ねて、パンニング皿を振っていました。

「そんな簡単にあるわけ…あっ、あった～！」

「金が入っていたよ」

各自の小びんを見せてもらうと、量の差はあっても、ゼロという結果は一人もおらず、戦国時代に行われていた産金技術で金を採取することができました。隊員達に「やったー」という自信に満ちた笑顔が広がりました。

第３日目：「こども金座」

～灰吹実験～

９月２日(日)　曇り

金山探険隊もいよいよ大詰め。３回目は灰吹実験です。隊員たちにはどんな方法で実験が行われるか、詳しいことは知らせてありませんでしたが、１ｇの純金の粒が出来上がるということをとても楽しみにしている様子でした。

今回はバーナーや薬品を使用するため危険が伴ない、また専門的な技術や知識を必要とする部分が多いため、和光金属研究所の伊藤博之先生に指導に当たっていただきました。

手順説明後、作業開始。まずるつぼに灰を敷き詰めて「灰床」を作り、つき固めます。この作業が意外にも手間がかかりました。みんな手を真っ黒にしながらも一生懸命です。そして不純物の混じった金の粒を鉛板でくるみ、るつぼの上に乗せます。あらかじめ温めてあった電気炉にるつぼごと入れ熱します。約５分後取り出したるつぼの灰の上には溶けて合金となったものがぽつんと…。それをさらにバーナーで熱した後、酸素を吹きつけると、液体状になった金が黄金色に丸くなっていきます。みんなとても興味深そうに見ていました。しばらく置いて冷めた金粒を手に取り真鍮ブラシで磨くと、るつぼの上では鈍い光だった金粒が、本来の純金の輝きに変わりました。

直径５ミリほどの金の粒をケースに入れて嬉しそうに持っている隊員の姿が印象的でした。

この日の参加者は３日間の中で最も多く、25人となりました。出来上がった金は自分の成果として隊員各自が持ち帰りました。

～隊員の自慢話大会（修了式）～

実験がすべて終了後、引き続いて修了式。

３日間のうち１日でも参加した隊員に、谷口館長から修了証が手渡されました。そして参加してみて「自慢できた事」を一言づつ発表してもらいましたが、隊員の中の年長組はやはりお兄さん、お姉さんという感じで、はっきりと感想を述べました。逆に中学年の隊員たちは人前で発表することがとても照れ臭いようでしたが、アンケート用紙にはいろんな感想を述べてくれていました。

ここに隊員達の「自慢話」を紹介します。

・友達に金を見せて自慢する（Ｔ・Ｋ／下部町）

・山金をたくさん採ったので今度から金山衆と呼んでくれ。（Ｓ・Ｅ／平塚市）

などここに紹介しきれないほどいろいろありました。後日、機会をみて紹介します。

総　評

夏休み中の１か月間に３回、みんなよく頑張りました。特に遠方からの参加者が多く、お父さんやお母さんも大変だったことでしょう。

３回を通して参加できた隊員が多く、全体的によくまとまって作業してくれました。どの作業も初めての経験ですし、「金」という魅力に大人子ども関係なくひきつけられたようでした。

館としても初めての事業でした。遠く戦国時代にあり、今は途絶えた産金技術を、こども達と共に再現できたことは大きな収穫でした。こども達の「科学する芽」「創造する芽」が引き出せたと思います。

これからは毎年、夏休みの事業として実施したいと思っています。

私の研究ノート⑦

金山衆・宮内左衛門（くないさえもん）

高　岡　伸　五（湯之奥金山博物館友の会会員）

私は「私の研究ノート」④（館だより第15号）で、慶長７年（1602）に徳川家康の家臣志村甚之助が調べた中山・富士麓両金山の掘間の記録にある掘間（こさいし）の宮内左衛門の名が、28年後の天正２年（1574）に武田家（勝頼）が駿河国旧富士郡14村、49人へ発給した「武田家普請役免許朱印状」の中にも「さおり」の宮内左衛門として見られることから、同一人物である可能性を解きました。

既に、湯之奥金山に深く関わった金山衆の動向を知る４通の「判物証文写／内閣文庫所蔵」天文３年（1534）の今川氏親後室寿桂尼文書に見られる「富士金山への出入り」、永禄11年（1568）の穴山信君文書の「中山金山への出入り」、元亀２年（1571）の武田家朱印状「深沢城での奉公に対する褒美（籾子150俵）」、天正11年（1583）の穴山竹千代文書の「金山衆河口六左衛門尉の棟別諸役家二軒分並びに掘間の役免除」など、湯之奥金山の歴史の中で重要な文書４通を、河口六左衛門尉の子孫である市郎右衛門が所有していたことが明らかとなっており、その市郎右衛門は、慶安３年（1650）の門西家文書「運上間歩につき訴状」の中で、沢内内山、市郎右衛門として出てくる市郎右衛門と同一人物として捉えることができますので、こうした資料から湯之奥金山の金山衆は駿河国の方たちであるという見方が定着しつつあります（注）。

掘間（こさいし）の間歩主「宮内左衛門」と「さおり」の「宮内左衛門」は、富士（麓）や湯之奥金山へ登る旧富士郡の麓（現在は上井出村麓）と、佐折（現在は白糸村佐折）は隣接地にあって、二人の「宮内左衛門」が同一人物である可能性は高いと思っています。

ところで、当然同一人物ではありませんが、黒川金山でも天正11年（1583）に徳川家康から黒川の金山衆に発給した安堵状、これには個人に宛てられたものと、複数名宛の安堵状で代表格の金山衆に発給したものがありますが、その後者の一通にあたる文書に８人の名が連記されたものが残っています。

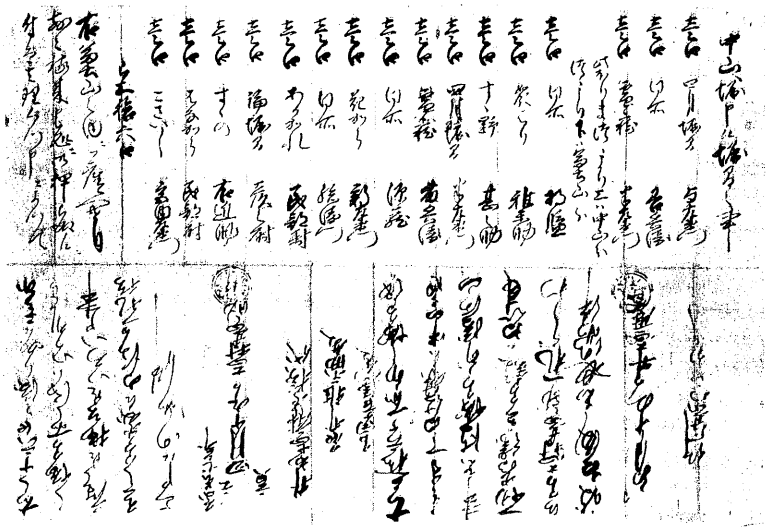
中村弾左衛門尉、依田平左衛門尉、大野将監、風間庄左衛門尉、田辺清九郎、古屋次郎右衛門尉、田辺四郎左衛門尉、依田宮内左衛門尉です。この中に「依田宮内左衛門」の名がみられます。

また、慶長９年（1604）に行われた駿河国駿東郡の検地帳の中に、御宿村「宮内左衛門」が認められます。宝永４年（1707）の湯山安右衛門家の由緒書きを見ると、この宮内左衛門は御宿村の神宮（神主）として招請されたか、もともと御宿村の名主であったと記されています。

私は、この「宮内」という律令時代に職制として整備された官名、後に形骸化されて行くわけですが、それを名乗る人たちに興味を持つわけです。従って「宮内」を名乗る人たちの姿から、金山衆「宮内左衛門」の人物像を追い求めたいと思っています。

（参考資料）富士宮市史、近世初期の駿河支配、静岡県史、湯之奥金山遺跡の研究、山梨県史など。

（注）湯之奥金山博物館谷口一夫館長のご教示をいただいた。



慶長７年（1602）の志村甚之助文書（竹川家所蔵）
上段の左端の間歩一口に「こさいし宮内左衛門」とある

公開講座のお知らせ

金山衆の産金技術を探る
…「粉成・比重選鉱・灰吹・色揚げ」の理論と実際…

通算回	期　日	演　題	講　師　名
第21回	平成13年 9月29日(土)	「湯之奥型、黒川型、リンズ式定形型」 挽き臼の特質と実際	湯之奥金山博物館 館長　谷口一夫
第22回	10月20日(土)	比重選鉱の方法と実際	北海道・留萌市 (砂金夢追人)　斉藤勝幸
第23回	11月17日(土)	灰吹法の理論と実際	和光金属技術研究所 代表　伊藤博之
第24回	12月15日(土)	色揚げ技術の理論と実際	和光金属技術研究所 代表　伊藤博之
第25回	平成14年 1月19日(土)	文献に表れた甲州金と現物貨幣	早稲田大学・白梅学園短期大学 非常勤講師　西脇　康

主　催　甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
下部町教育委員会
会　場　湯之奥金山博物館多目的ホール（ＪＲ身延線下部温泉駅下車・徒歩約３分）
時　間　午後２時～午後４時
受講料　無料
その他　◎　博物館見学及び砂金採り体験希望者には割引券を用意いたします。
◎　気象条件や講師の都合等により日程が変更される場合がありますので、その都度博物館へお問い合わせのうえ御来館ください。

親子映画鑑賞会

二月に一度のペースで開催してきた「親子映画鑑賞会」もすでに７回を数え、子どもたちの中にも少しづつ浸透してきたようです。

通常、当館の映像シアターは常設展示の一部であるため、開館中は開放することが出来ません。また、当館の休館日にあたる水曜日では、日中は学校のため、春休み、夏休みなど子どもたちが長期休暇に入った時の休館日を利用して、お昼から３本立ての映画会を行っています。

昔の作品から現在の作品まで、親子で楽しめる作品の選定を心がけていますが、３本立ての時は、毎回映画会終了後に記入してもらうアンケートをもとに、上映要望の声が多く上がった作品をメインに作品選定しています。

次回の映画鑑賞会は

10月27日(土)　午後６時45分～
平成14年３月27日(水)　午後１時～

を予定していますので足をお運びください。

――お詫び――

去る８月22日、８回目の映画会を予定していましたが、大型台風11号の接近に伴ない、やむなく映画会中止を決定いたしました。当日上映予定作品は後日改めて上映いたします。

次回の映画会もぜひお楽しみ頂きたいと思います。

編集後記

もうみんな夏休み気分もすっかり抜けたころでしょうか。

博物館一大イベント「こども金山探険隊」も参加者の皆さんはじめ、多方面にわたって多くの方々にご協力いただき、無事終了することができました。ありがとうございました。最終日の灰吹実験には大人の方も参加してくださいました。この灰吹実験で出来上がった大人の方々の甲州古金は事業実績として寄贈していただきました。灰吹金はエントランス正面に展示中ですので御来館の際にはぜひ御覧ください。今回、「誌上博物館」は紙面の都合上休止させていただきましたが、次号からは再開しますのでよろしくお願いします。

博物館だより　第18号　平成13年９月18日
発行　甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
ＴＥＬ　0556（36）0015
ＦＡＸ　0556（36）0003
博物館ホームページアドレス http://www 2. town. shimobe. yamanashi. jp/kinzan/　博物館Ｅメールアドレス kinzan@town. shimobe. yamanashi. jp